



支援部だより

令和5年11月10日

外部講師研修を行いました！

10月12日に、岡山大学病院総合リハビリテーション科から福田先生をお招きし、児童・生徒の活動の様子を巡回指導していただきました。体の使い方に課題がある子ども達の姿勢の見方やアプローチの方法を、実際の姿勢を経験したり、教員同士で実技をし合ったりして学びました。

学習の土台である姿勢や体の使い方が少しでも改善できるよう役立てていきたいです。



ことばの部屋から 発声・発語の土台づくり



本校に勤務する言語聴覚士の岡田先生から教えていただいた「明瞭に発声や発音を行うための土台づくり」に関する話題を、今回は紹介します。

発声や発音をするために、私たちは口の中や口の周りの機能の使い方を生活の中で自然に学び、無意識に組み合わせて活用を行っています。ご家族や支援者の方が普段の生活の中で、「言っていることが聞き取りづらいかな。」「音声で伝えようとする姿が見られてきた。」などの気づきがあった際に、日常の学校や家庭で取り組むことができる活動をいくつか紹介しますので、よろしければ参考にしてください。

☆ポイント☆**CSSB**（かむ・吸う・飲み込む・吹く）の力を育てる

Chewing（かむ）

顎をうごかして、奥歯でかむことで口周りの筋肉の動きが滑らかになります。飴をなめるなどで、舌の動きを高めることも効果的です。



Sucking（吸う・すする）= Breathe（吸う）

吸うためには、食べ物の内容や道具に合わせて力の加減が必要になります。麺やおつゆのすすり、ストローの使用、ハーモニカの吹き込みなども取組の一つです。



Swallowing（飲み込む）

ゴックンと飲み込むときには、喉や舌を動かします。「か行」の音を出すための一つの手法として、がらがらうがいから導くことができます。



Blowing（吹く）

紙風船やシャボン玉など、対象物に息を吹き込む経験から呼気の調整の力を高めることができます。窓拭きの「はー」という息はきも、調整の力となりますね。



11月・12月の予定

スクールカウンセラー 安東先生

11月21日（火）午前、12月12日（火）午後

※やむなく、日時が変更になる場合があります。
※ご希望の方は、連絡帳や電話等でお知らせください。